

第5章 計画の基本的な考え方

1 基本理念

めざせ現役・1世紀

～誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる絆のまちづくり～

本市の高齢者が、一生涯、自分らしく、心も体もいきいきと暮らしていけるように、家族や地域、福祉関係団体、行政などの様々な方々が協力し、“絆”で結ばれた高齢者の安心ネットワークを構築します。

また、高齢者が増加することが地域を支える人材が豊富になるというプラスの視点から、それら高齢者の知識や技能を積極的に活かし、高齢者が活躍できるまちづくりを目指します。

重点的施策

【認知症高齢者対策の充実】

□地域ぐるみの認知症予防対策の推進

- ・認知症の正しい理解を啓発し、地域での見守り体制を推進します。
- ・認知症予防の知識の普及と、実践できる環境づくりを推進します。

□認知症ケアの充実

- ・医療、介護、福祉の連携を強化し、早期発見と早期対応の体制整備や相談窓口の充実を図ります。

【地域包括ケア対策の充実】

□地域包括ケアシステムの構築

- ・在宅介護サービスの基盤整備と関係機関との連携を推進します。
- ・地域の介護力を高めるために、人材の育成を図ります。

2 基本目標

(1) 高齢者の元気力を高める

高齢者が住み慣れた地域でその人らしくいきいきと暮らしていくためには、健康づくりや介護予防などの体の健康づくりや生きがいつくり、社会参加などの心の健康づくりが大切です。そのため、より効果的な介護予防の研究、実施に努めて、総合的な介護予防システムを構築します。また、老人クラブやシルバー人材センターなどの活動組織との連携や生涯学習の充実など、高齢者の生きがいつくりや社会参加の場や機会の拡充に努めます。

(2) 地域の支え合いの力を高める

高齢者やその家族が安心して本市に住み続けるには、市全体や地域が一体となり、行政、福祉関係団体、地域などの多様な主体が「自助、互助、共助、公助」※のそれぞれの役割を持ち、地域の福祉を推進することが大切です。そのため、地域包括支援センターの機能強化をはじめ、地域の様々な活動団体との連携を図り、地域全体で高齢者を支え合える環境づくりに努めます。

(3) 安心して暮らせる生活環境を高める

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、認知症対策、高齢者の権利に関わる問題解決のための支援、災害時などでの避難支援、またユニバーサルデザインのまちづくりなど、高齢者の生活環境に関わる幅広い分野の支援が大切です。そのため、行政内の関係課との連携を図るとともに、市民協働に向けた意識啓発や協働の仕組みづくりに努めます。

(4) 高齢者を支える介護力を高める

高齢者が要介護状態になっても、住み慣れた地域で生活し続けるためには、家族による見守り支援や介護保険サービス、福祉サービスなどの公的サービスによる支援といった重層的な支援体制が大切です。そのため、介護保険サービスや市の福祉サービスを積極的に利用できるよう、介護保険サービスの情報提供など利用支援を充実させるとともに、介護サービスの提供基盤の充実やサービスの質の向上に取り組み、必要とするサービスが利用しやすい環境づくりに努めます。

※「自助」：地域住民一人ひとりやその家族の生活、健康を自らが維持すること

「互助」：インフォーマルな近隣やボランティア等の住民同士の助け合い

「共助」：介護保険のような制度化された相互扶助

「公助」：自助・互助・共助では対応できない困窮等の状況に対し、所得や生活水準、家庭状況等の受給要件を定めた上で必要な生活保障を行う社会福祉等

3 施策体系

《基本理念》

《基本目標》

《施策》

